

## 第7章 旧別子・別子山ゾーン整備計画

### 「明治近代化の象徴 近代化産業の源泉と環境回復の体感空間」

#### 1. 旧別子・別子山ゾーンの現況

##### (1) 旧別子・別子山ゾーンの産業遺産集積状況

図-＜旧別子・別子山ゾーン＞周辺現況図 参照

##### 【文化財施設】

旧別子・別子山地区は、江戸期から明治期の近代化産業遺産が数多く残されていますが、指定・登録された文化財施設はありません。

##### 【その他の産業遺産】

旧別子地区は、歓喜坑、歓東坑の江戸期の遺構が整備されて残されています。その他、東延斜坑、第一通洞、牛車道、小足谷劇場、高橋製錬所跡等明治期の近代化産業遺産も数多く残されています。地域全体を見れば、標高 1000m の鉱山町、採鉱現場、製錬現場の鉱山フレームを形成していることから一体的な鉱山施設が遺されている唯一の地域です。

そして旧別子地区では、伊庭貞剛が進めた植林事業により緑豊かな森に還っています。

別子山地区には、別子銅山産業遺産の中で唯一見学できる明治期から閉山まで稼行していた筏津坑（弟地坑）があり、坑口から 30m 程の間見学ができます。その他、江戸期の坑口跡が遺されています。

また、別子山地区には住友共同電力の別子山水力発電所、小美野水力発電所が現在稼働しており、地域に電力を供給しています。

ゾーンの長は、別子銅山の原点として、日本の鉱山史の原点ともいえる地域として、数多くの遺構が遺され雄弁に近世から近代への鉱山史を物語る地域であり、地域全体の価値が非常に高いものです。100 年以上前から環境共生を図った年間 100 万本にもおよぶ植林事業により緑豊かに還った山は日本の誇りでもあります。

【主な施設写真】



歓喜坑



歓東坑



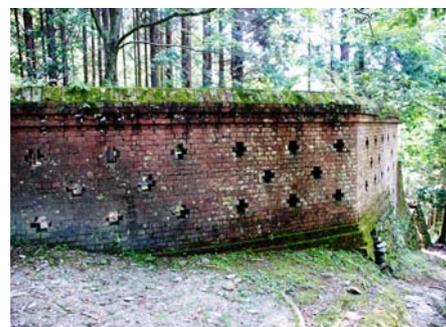
蘭塔場跡



第一通洞南口（代々坑）



東延斜坑



小足谷接待館跡



小足谷劇場跡



笹津坑

<旧別子・別子山ゾーン>周辺現況図  
A 3 図面挿入

## (2) 旧別子・別子山ゾーン現況状況

### 1) 博物館の開館状況

#### 【別子山ふるさと館】

住所	愛媛県新居浜市別子山甲 345
管理運営	新居浜市
開館時間	10時～17時（10月～3月 10時～16時）
休館日	火曜日、国民の祝日、年末年始
料金	無料
館内展示内容	旧別子山村の資料展示を主とした資料館。別子山ふるさと館は、別子銅山の歴史をたどる写真パネルや鉱山器具や鉱石、別子山の特産品などを数多く展示しています。屋外には、銅山川の流れが作った甌穴が見られる庭もあります。また、軽食喫茶ができる施設も併設されています。

#### 【フォレスターハウス】

住所	愛媛県新居浜市別子山 555-70
管理運営	住友林業フォレストサービス株式会社 フォレスターハウス
開館時間	10時～16時
休館日	月曜日、火曜日（12月～2月冬季休館）
料金	無料
館内展示内容	<p>住友家別子支配人伊庭貞剛（のち第2代総理事）が明治27年（1894）から実施した「大造林計画」100周年を記念して、住友林業が平成5年（1993）に愛媛県別子山村（当時）中七番の地に開設した施設です。</p> <p>住友林業四国社有林の姿を紹介する「住友の森ギャラリー」、山林事業や森林管理に関する情報や技術を紹介する「持続可能な森づくり」、住友の山林事業の成り立ちや住友林業の現在の環境活動を活動などを紹介する「住友林業の環境保全活動」、フォレスターハウス周辺の自然を紹介する「フォレスターハウスの自然観察」の4ゾーンで構成され、パネルや模型で分かりやすく紹介しています。</p> <p>また、広い庭園には、珍しい季節の花が自然状態で咲いています。「フォレスターハウス」と「記念広場」は一般の方々に無料で公開されています。</p>

## 2) 新居浜市街地から別子山地区への移動性

### 【別子山地域バス】

<u>別子山ふるさと館よりマイントピア別子</u> バス「マイントピア別子」	所要時間約 1 時間	400 円
<u>別子山ふるさと館より山根地区</u> バス「山根グラウンド」	所要時間約 1 時間 8 分	400 円
<u>別子山ふるさと館より星越地区</u> バス「リーガホテル前」	所要時間約 1 時間 40 分	400 円

※別子山支所からふるさと館への自転車移動

### 【自転車】

別子山支所より別子山ふるさと館  
距離約 3.7 km 所要時間約 22 分 平均速度 10km/h

## (3) 旧別子・別子山ゾーンの現状の課題

- 旧別子は唯一鉱山フレーム（鉱山町、採鉱現場、製錬現場）を形成しており全山がそのまま産業遺産資源として遺されていますが、その価値の理解及び認知度が得られていないと言えます。
- 別子山ふるさと館と他地区の広瀬歴史記念館、別子銅山記念館、マイントピア別子、愛媛県総合科学博物館等管理者が異なる施設ではありますが、多様な主体者間の連携で産業遺産を学習、観光に活用していません。
- 観光活用を進めていくと多くの市民や観光客が誘導されることとなります。別子山は重装備なく散策できる山ですが、遺構を見学に山深く入ると安全が確保されている保障がありません。観光客などの安全、自然環境の保全に課題があります。
- 今後数多くの遺構の保存に向かつては、所有者との協議、施設維持に関する安全性や財源確保等の課題を抱えています。
- 近代化産業遺産資源は調査が進んでいません。また、別子山地区でわかっている近代化産業遺産については説明板が必要です。全体的に近代化産業遺産の調査と施設説明が不足しています。

## 2. 旧別子・別子山ゾーンの保存活用方針

### (1) 保存活用の目的

#### ■ 「旧の青々した緑深い自然環境に囲まれた遺構は自然のままに保存」 別子銅山の原点保存は企業との共存

##### □ 産業遺産のストックを重視し自然環境と共生した理念継承

明治27年(1894)別子銅山支配人として赴任した伊庭貞剛は荒れはてた山を見て嘆き、大植林計画を立て、旧の青々した山に戻しこれを大自然に返すことを決意します。

旧別子内の江戸期から明治期にかけての遺構は、坑口や登山道整備など所有企業が手をいれて保存整備されています。緑深い山に還った自然環境とともに企業と地域の共存の理念を保存することを目的とします。

##### □ 登山客や自然散策の愛好家などに産業遺産の魅力を伝える

例年多くの登山客や自然散策愛好家が訪れる地域ですので、産業遺産の説明板等を設置し訪れる人にPRする保存活用を図ります。

##### □ 産業遺産の学びの場として保存活用し別子山との地域交流を活発化させる

別子山ふるさと館及び本物の産業遺産をネットワーク化し教育・学習活用により別子山地域との交流を活性化させます。統一されたサイン計画や案内板、自転車道整備によりスムーズな周遊を確保することやプログラムの連携を図ることで地域交流を活性化させます。

##### □ 東予一円に残る別子銅山関連遺産による広域連携

これまでも、四国中央市とは、山岳観光ルート「別子・翠波はな街道」と位置づけ、広域観光を推進してきましたが、四国中央市には第一次泉屋道や代官所跡などの別子銅山関連遺跡もあり、これまでの広域観光の実績に新たな要素を加味した広域観光を図ります。

## (1) 近代化産業遺産保存方針

### ■ 産業遺産の価値保存

- 現存する近代化産業遺産施設の保存に向けて所有者との協議、地域への啓発を行い保存することが望ましい施設については所有者との合意形成を図り保存します。
- 産業遺産を文化財保護の視点でその価値を保存する。文化財とする場合、所有者に対する配慮として補助、税の優遇など支援策を提案します。
- 消失している近代化産業遺産や掘り起こした近代化産業遺産の説明板を追加し価値保存を進めます。山の中にある遺構の価値保存は現地への訪問が容易ではないことから、施設での展示など適切な方策を検討し進めていきます。

### ■ 環境配慮に尽くした価値保存

- 100年以上前からエコのまちと言われるように、別子全山が元の自然環境を取り戻し現在の自然環境を形成している。自然との共生を図った価値保存をします。
- 旧別子・別子山ゾーンは、自然学習、環境対策、鉱物資源、産業技術、社宅生活、企業運営と銅山経営の全てが凝縮された地区であり、学習・研究素材として価値保存します。

### ■ 森林環境の保全

- 森林の適正な管理について所有者と協議し、都市計画、特に国土利用計画の土地利用の適正な運用を図り森林環境の保全に努めます。

## (2) まちづくり活用方針

### ■ エコミュージアム 産業遺産と自然学習

- 旧別子は唯一鉱山フレーム（鉱山町、採鉱現場、製錬現場）を形成しており全山がそのまま産業遺産資源として自然環境に囲まれ遺されており、伊庭貞剛の植林事業の歴史などを体感しながら産業遺産と自然学習のエコミュージアムとして活用を図り別子山地域との交流を活性化させます。

### ■ 学びの場 ミュージアムリンク

- 別子山ふるさと館に別子山エリア特有の江戸期から明治期にかけての近代化産業遺産展示、地域生活文化展示として編集し、他地区の広瀬歴史記念館、別子銅山記念館、文化財等産業遺産をネットワーク化し、周遊の学びにスタンプラリー\*などアイデアを盛り込んで積極的な学びの活用を行います。
- 他地区の博物館等と異なる主体者間で連携を図りプログラム等のネットワーク化による学びと周遊観光の活用を図ります。

### ■ 無形文化財の保存活用

- 銅山閉山後しだいに体験者の記憶が失われつつあり、地域生活文化の積極的な記録保存を進めその記録の公開など活用します。

### 3. 旧別子・別子山ゾーンの整備方針

図-〈旧別子・別子山ゾーン〉整備計画図 参照

#### ■ 着地型観光の促進 統一されたサイン計画、案内板、産業遺産説明板の充足

- 市内統一誘導サイン、観光案内等整備を図ります。
- 産業遺産説明板は八十八箇所に充足させ、周遊の面白みを作り、イベントなど活動基盤を作り着地型観光を活性化させます。
- 別子山支所を中心に自転車周遊を考慮した範囲として日浦～別子山ふるさと館の県道に産業遺産説明板等優先的に整備を図ります。

#### ■ 自転車周遊の仕組みづくり

- 日浦～別子山ふるさと館の範囲で産業遺産巡りを支える方策として、レンタルサイクルの仕組みづくりを進めます。別子山支所、公民館、別子山ふるさと館の各施設でレンタルサイクルの窓口となることや別子山巡りのスタンプラリー企画等考案を進めていきます。

#### ■ 筏津坑を観光坑道として整備

- 別子銅山で唯一本物の坑内見学ができる筏津坑を観光坑道として、鉱山で使われていた機器類を含めて見学展示物として整備を図ります。

#### ■ ミュージアムリンク 学びと観光の連携

- 主体者の異なる博物館を連携しプログラム共有、博物館学びのネットワーク化と施設の利用促進、都市型観光促進に向けて、主体者、管理者、ボランティアガイド等で組織体制づくりを進めます。

#### ■ 近代化産業遺産調査価値保存

- 近代化産業遺産の現地調査や資料調査を行い史跡保存に努め、必要であれば文化財として適切に保護政策を施し、現地に説明板等整備を図ります。

#### ■ 協働まちづくり まちづくり体制づくり

- 旧別子・別子山ゾーンのエコミュージアム化、無形文化の保存、地域教育との連携等協働まちづくりの活動支援、産業遺産の普及啓発活動、ボランティア育成、市民団体への支援等まちづくり体制をつくります。

<旧別子・別子山ゾーン>整備計画図  
A 3 図面挿入